

第1回 今治市総合計画審議会 会議録

1 日 時 令和6年11月20日(水) 14時00分～16時00分

2 会 場 今治市役所 第2別館 11階 特別会議室1・2号

3 内 容

- 1 開 会
- 2 市長あいさつ(諮問)
- 3 委員のご紹介
- 4 会長・副会長の選出
- 5 会長あいさつ
- 6 議 事
 - (1) 今治市総合計画の策定について
 - (2) 今治市総合計画の策定に係る各種調査結果について
 - (3) 今後の開催予定について
- 7 閉 会

4 出席者 <委 員> (順不同、敬称は省略)

倉澤 生雄	菊川 堅吾	増田 茂樹
黒田 周子	長野 和幸	松村 暢彦
津村 侑子	神林 康弘	村上 浩一
渡部 浩忠	原 竜也	坂野花菜子
阿部秀二郎	重松 恵子	村上奈津子
藤倉 晶子	※欠席者4名	

<事務局>

今治市長 徳永 繁樹
総合政策部
企画政策局長 重松 義文
市民が真ん中課
課長 馬越 啓之、課長補佐 尾崎 大輔
主事 安部 昂大

(受託業者) 有限責任監査法人トーマツ 大阪事務所
玉井 智文、黒山 祐嗣

第1回今治市総合計画審議会 会議録 ※内容1～5については省略

事務局	(議事1の内容について説明)
会長	<p>以上で議事1「今治市総合計画の策定について」の説明は終わりました。何か質問等はありませんでしょうか。</p> <p>それでは、ご質問がないようですので、次に議事2「今治市総合計画の策定に係る各種調査結果について」事務局より説明を求めます。</p>
事務局	(議事2の内容について説明)
会長	<p>以上で、「議事2 今治市総合計画の策定に係る各種調査結果について」の説明が終わりました。</p> <p>ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ありませんでしょうか。</p>
委員	<p>調査についてはわかりましたが、一体この調査から何がわかったのか、調査した時のお気持ちの言葉をいただきたいのと、本日はトーマツさんもいらっしゃいますが、これは全国に対してのものなのか、私は商売人ですが、仕事の際には仮想ターゲットを作ります。都会に勝たないといけないとか、松山に勝たないといけないとか、仮想敵国に対してどう数字が動いているのか、比較対象の数字が欲しいです。これだとただの今治市の現状になってしまっている。</p> <p>この現状はバランスが良いのか悪いのか、ここからは出てこない。日本全国からみて、この現状は危機的状況なのか、まだまだ頑張れている状況なのか、そういう数字が見えない。</p> <p>トーマツは全国の事情を把握していらっしゃる。ここではその数字が欲しいです。でないと、この集めた数字が生きてこない。今の状態だと「現状についてわかりました」と言うほかない。バランスを測る補足の数字を頂いて、私たちはその数字を改善するため、この政策をうつ、このデータがその根拠になるよねと、そういうような議論をしていかないといけない。また高校生の意見も全て真に受けるのか、65歳以上の意見を真に受けるのか、どこを真に受けるのかという話もある。とにかく、比較対象ができる根拠を示してほしい。そのためにトーマツがいらっしゃるのです。</p>
事務局	<p>まず「分析をする中での気持ち」、というところについてですが、我々が思っている予想以上に、人口減少が進んでいるなど強く危機感をもったのが最初の感想です。</p> <p>2点目の比較対象の点につきましては、当然、比較対象都市以外にも多数の数値がございまして、多数ある中でもわかりやすいようにということで、</p>

	<p>この比較対象都市の選択をさせていただきました。指摘頂きましたとおり、全国的な比較が必要であるということは我々も認識しておりますので、この点については今日お示しすることはできませんが、これから分析をさせていただいて、ご提供できるものがあればそのようにさせていただきます。</p>
<p>会 長</p>	<p>データを見てみると、東予の中よりは、尾道に近い印象ですね。松山ほどの高齢化ではなかったり、そういう意味では特徴的な点は今回報告いただいた分析結果からも見え隠れするので、そのあたりをうまくまとめていただければと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>初めてこういった数値を目にしましたが、実際の数字面でこれが転出する方がどういった理由で転出しているかについてアンケートをとっていただければなと思いました。</p> <p>「夫の転勤」や「夢を追いかけて」、「将来今治に帰ってくる予定はあるか」についてなど、私たちは今治に住んでいるので、これから出ていくことはないですが、転勤族の方は出ていくだろうし、様々皆さん事情があるので。数字はわかりましたが、何が要因で転出しているのかを具体的に調べるようなことを今後していただきたいです。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>ご指摘のとおり、検討させていただきます。</p>
<p>委 員</p>	<p>人口問題はなかなか難しいものと思いますが、以前から人口減少について、今治市の内需というものを、インバウンドも含めて観光業界で補えないかという考えがでましたが、とんでもない KPI の数字が出てなかなか観光だけでは補えないという話が、コロナ禍の前の会議で話が出ていたということがあります。人口を増やすというのは、私の感覚は乱暴かもしれませんが、10年、15年、20年先に自然的に子どもが生まれ、バンバン増えていくことをいうのか、明石市のような形で神戸市など周りの地域からどんどん人口をとっていくのか、明石市の例でいうと、とても良い政策をされたこともあり、成功した事例ですが、大阪まで仕事へ出るときに神戸市、もしくは明石市どちらに住むだろうか。明石は神戸からプラス10分でこんなに子育て支援があるから、三宮でなくて明石のマンションに住もうとなったケースが多かったときいています。例えば松山市に働きに行くとなった場合、電車はどうかというところで、同じようなモデル、例えば広島県でいうと山のほうのまち、そこで同じようなことをして、結局広島市内へのアクセスが悪いから、明石市と同じようにはならなかったという歴史が、ある程度参考になるのではないか。今の今治市において、どういう風に流入を増やすかというのは、成功した明石の事例ではなくて、今治市の足元というか、生活・移動環境を</p>

加味した作戦を立てないと難しいのではないかなという気がします。

それと、アンケートの数が多ければ可決となるのか、若い世代に過重配点をして若者の意見を重点的にやっていくのか。こういうところの基本方針として、どの意見をどのように取り入れるかということはある程度考えていかないと、老人性デモクラシーというようなことになってしまうおそれがある。例えば20代や30代の票を圧縮・増大して世代間の平等を取り入れるのか、1票は1票だからということで、60代、70代の意見が大多数を占めてしまうのか、というところの方向性を、10年間の計画を作る上で、一番初めに定める必要があるのかなと。先ほど申し上げましたもう一つの人口を増やす方法である子供を多く生むというのは、これがなぜ実行できないかというところ、これは今治市の問題というよりか日本国家の問題というような気がします。子ども家庭庁の総予算を2023年赤ちゃんの出生数で割ると、一人の赤ちゃんにつき830、840万円くらいになります。子ども家庭庁の1人産んだら800万差し上げるといふ政策ができる、このような乱暴な発想も生まれてきます。そもそも子どもを産んで子どもの支援をするというよりも、「子どもはぜいたく品」と言ったりしますが、いかに子どもを作れない若者が子どもを産もうという気持ちになるか、結婚をしようと言わせられるような環境づくりが必要です。今治市だけでは難しいのかもしれませんが、その辺の根本的なところのヒアリングを行うときに、何を目標にヒアリングをするのか。ただ、一票一票の意見を集めるだけでは、今までのやり方を踏襲する形になる。10年先の人口構成を新たに見直していくのであれば、踏み込んだことをするのも、一つの一步になるのではないかと思います。

会

長

恐らくこの計画のプランニングは多数決ではありません。たくさんの方が賛同するならこれをやりましょうというのであれば、我々は必要ではないですよ。そうではなく市民のアンケートというのは年齢階層別など、いろいろな地域の方が「どういう願いをもっているのか」が分析結果として出てきている。それを踏まえてどう解釈するのかは我々の職責なのかなと思います。そういった意味では、あまり多数決で決めていくという形にするのはどうかと思いますし、それは各委員の心の中で配分を行っていくものになるかと思っています。そうでないと、気持ちとしては「若い方に」と思われる方が多いかもしれませんが、今の若い人もいずれ高齢者になっていきます。そうなったときに、高齢者をないがしろにするのではなく、希望をもってつないでいけるようなものにするべきだと思います。アンケートの結果を踏まえ、皆さんで審議して決めていきたいと考えています。次回の会議ではこういった分析をお願いしたいといったようなこともリクエストできると思いますし、トーマツさんのほうからこういったデータがありますがどうでしょうかというようなお話も聞けるのではないかと思います。

事務局	<p>現在はアンケート結果については分析をしているところで、また次回に分析結果をお伝えできると思いますので、ご理解いただければと思います。</p>
委員	<p>こんなデータも欲しいなという意味で、ひとつ考えて頂きたいのが、人口の特徴で外国人の割合が多いというのは記載して頂いていますが、比較対象がこの5つの自治体だからそうみえるのではないのでしょうか。例えば自動車メーカーの工場がある城下町のようなところは同じ規模の自治体でももっと外国人規比率が高いはずで。ではそういうところがどのような施策を行っているのかということは我々今治市に対する資産になるのではないのでしょうか。この3番のところ、労働集約型の製造業が強い自治体と比べるとどうなのかについてはデータとして見られても良いと思います。</p>
委員	<p>在住外国人の割合について、昨年の数値ではありますが、今治市が約2.2%で全国的には2.6%です。その2.6というのは、東京都のような集中都市もあわせた全部の平均が2.6%になっていますので、やはり今治市は特徴的に外国人が多いというくくりには入っていると思います。もちろん特別な就職地域もございますが、全国的には個々のまちが抱えている問題が様々なので、比較をするということもとても大事ですが、今治の地元性を深く研究するのも重要かと思います。</p>
委員	<p>人口はどうしても日本国内での取り合いしかないのかなと考えると、外国人の方が多いというのは大事なキーになると思う。感覚的な話、一昔前までは外国人の方が買い物袋をぶら下げて、自転車に乗って集団で生活しているようなイメージだったが、今は普通に居酒屋でお酒を飲んでいるよという話を聞いた。当然給料はあまり高くないし、そういうのもあるなかで、FC今治高校のバリチャレンジでは「外国人がどう日本で一緒に共生できるか」ということについてプレゼンをした方がいて、「マルシェでも何かできませんか」とわざわざ来てくれて言ってくるような積極的な学生さんでした。昔に比べて、ただの労働力としての外国人というのではなく、もう少し吸収力もあって、当時はなかなか共生ということにはならなかったのかなと思いますが、今は状況が変わってきているのかなと思います。どう共生していくべきか、イメージがまだわかりませんが、国際交流協会ですら英語をしますというのではなく、他にいろいろやっていることがあるのではないかと会報誌を拝見していてと思いますが、労働というのではなく共生という意味で良いモデルがあるなど、何かお話があればと思います。</p>
委員	<p>現在、技能実習生が多いというのが今治市の特徴ですが、政府の施策も変</p>

	<p>わり、ちゃんと賃金を支払うというふうに環境も良くなっています。来ている国によって、日本に来る前に借金をして来る層と、比較的借金はなく、こちらで稼いだものは自分たちで使ったり、自国へ送ったりとそれぞれ事情が異なります。最近、特に今治市はフィリピン人が一番多いのですけれども、フィリピンの方は家族、友達を大事にするような地域特徴があって、「自分たちが今治で幸せに暮らしていればよかったら君も来ないか」というので、親戚を呼び寄せることもあります。家族も定住できるようなシステムに法律が変わっていますので、そうすると、学校現場にもお子さんが普通にいらっしやって、昔の技能実習生のように制度に閉じ込められているような形ではなく、長年いるとステータスが変わるので、そうすると、自分たちで好きなように家を借りたり、比較的豊かに暮らしている方もいらっしやいます。</p>
<p>委員</p>	<p>同じく外国人共生についてですが、宗教的な違いもありますし、ただ共生といっても難しいのではないのでしょうか。ただ人口を増やすために、受け入れを増やすというのも、いろんな調査等をふまえてやっていかないと、ただ単に共生というだけで進めるのは問題があると思っています。好きな考え方ではあるので、決して反対しているわけではないです。ただ、マイナス面もあるかなど。もっと他の地域の事例が聞きたいですね。</p>
<p>委員</p>	<p>共生で言いますと、最初は国を越えてなのでやり取りが大変だったときくが、最近は通信機器も増えており、僕らが考えているよりももっと、国境も時間も越えて普通にしている。日本の中だと日本人が、という話になるが、世界で見ると、「外国人」ではなく同じ人間ですから、人間としてみんな結婚したり、幸せに暮らしています。</p>
<p>委員</p>	<p>少しネガティブなことを言いましたが、先ほど「同じ人間だから」とおっしゃられたように、そのとおり共生ということでお互い良い付き合いができれば、いいのではないかと思います。</p>
<p>委員</p>	<p>外国人との共生は非常に大事なことだと思うし、業界によってそれに対する捉え方も様々だなどお話を聞いていて思いました。今治市の人口動向、地域特性において産業では外国人労働者は全国的に非常に多かろうと思います。現在人口減少に向かっている中で、外国人と共生を目指す方向性は、住みやすい今治をどうするか総合計画が目標ですから、その意気が大事なのだと思います。地域では外国人労働者向けに生活サポートの相談窓口にも取り組んでいるということで、共生を目指すにはそういった労働環境だけではなく、全てのサポートというのはこれからも大事ですし、総合計画で目指すべき大きな目標だと思います。</p>

	<p>今治市の流入通勤者数が多いというお話があったと思いますが、人口減少が進む中で、近隣市町村からの人口の取り合いというのはどうしてもありません。しかし、必ずしも人口の取り合いが目的ではなくて、流入・流出通勤者数が多いということは、労働環境も良く、交通機関も整っている証拠だと思います。人口の取り合いという観点よりも、もう少し広い目で捉えて頂くほうが良いと感じました。</p>
<p>会 長</p>	<p>交流人口をいかに増やしていくかというのは、観光だけでなく、マルシェのようないろんなイベントを増やして、実質的に今治市に關与いただけるような方々を増やしていくというのがポイントかと思います。</p>
<p>委 員</p>	<p>人口が減少していくというのは今治だけではなく全国的な傾向で、今治だけでは解決もできない問題だとは思いますが、人口が増えていくことが良いことのような、何とかして数を取り戻さなければという発想になりがちなのですが、増えないですね。2050年を基準にして人口推計を行っても、人口の減少が多少緩やかになっても増えはしないという状況がリアルな状況だと思います。一般的には経済が縮小してまずいという話ばかりがされますが、それでも安定する経済というのを構想しながら、当然資本が大きくなっていくというのがベターではありますが、今はそういう状況でもない中で、拡大はしないがうまく安定するという社会をモデルとして示すことが重要だと思います。これは全国的にはどこでも大きいものを目指している形なのではないでしょうか。ある程度人口が減少してもうまく回すというようなモデルを作ることはできないだろうかと考えています。全国的にそのような考えの自治体はあるのでしょうか？</p>
<p>ト ー マ ツ</p>	<p>2015年に人口ビジョンという地方創生が発足し、当時人口ビジョンを策定した多くの自治体においては、人口を増やすことと、他団体から人口を取るという発想がされていました。というのも、当時は各自治体から「人口が減る」という発言をすることが世相的に憚られていたためです。ただ、それから時が流れ、ここ2・3年においては、人口減少が当たり前であると世の中の認識が変わりました。人口減少を見据えたまちづくりが重要ではないかという意見が増えてきておりますので、今おっしゃられたような考え方、「いかにかしこく縮むか」、縮充（しゅくじゅう）と言ったりしますが、今はそれを目指し、取り組み始めた自治体が出てきている頃ではないかと思います。早期に「縮充を進める」と宣言した自治体は数として多くなかったと記憶しています。</p>
<p>会 長</p>	<p>今、全国で「立地適正化計画」というのが多く策定されていますが、基本</p>

的には公共交通に沿った形で、そこに集まって住んで頂くもの。そうすると行政的に上下水道、電気ガスなど、財政の質量が減るため、そのようなまちを目指していこうと、20～30年前に青森が最初に始めたと記憶しています。しかしながら青森も中心市街地の活性化について失敗し、厳しい状況になっています。成功事例としていわれているのは富山がそうですが、全国で一番人口密度が低い県庁所在地を抱える地方都市でありながら、その取り組みを順調に進めています。しかし様々な研究によると、その効果が表れるのが、40～50年先になるといわれています。そのため、効果が出るまでの間を一体どうするのかについては、現状策がないという状況です。

今治においてもそうだと思いますが、マンションが多く建設される中で空き家が増えていくなど、非常に矛盾に満ちた社会が来ていると感じます。それに対して、ひと・まち・学校のシステムの問題など、皆さんの様々なご意見を頂けると非常にありがたいと思っています。普通の計画ですと、一つの項目に向かってドンと意見をだす形になりがちですが、そうではなくて、なるべく今年中の間はあまりまとまりを意識せず、様々雑多な意見を頂くほうが良いと考えています。様々な意見を取りまとめていただくためにトーマツさんもいらっしゃいますし、事務局のほうでもディレクション等対応していただきながらまとめていくことになろうかと思っています。

委員 今、富山は成功したとおっしゃられておりましたが、最終効果はまだ出ていないということで、どのような内容をもって成功と思われたのでしょうか。

会長 富山には路面電車と、港に行く JR 線の電車があったのですが、JR 線があまりにも赤字なので、不要ではないかと取り沙汰された際に、当時の富山市長が、市内の路面電車と JR 線を繋げ、かつ新型の路面電車を導入するなどの交通整備を行いました。加えて、その軌道上のエリアにおいて家賃など様々な補助を導入し、住民を増やしました。軌道沿いに住めば、車がなくても楽に街中へ出ることができるため、最終的に街中への投資にも繋げられたという内容です。

それと、居住環境の整備。あとイベント等を開催し、街中へ集まる人を増やすような取り組みをされています。

委員 公共交通の整備が充実させることが、広範囲に響いたということですね。

アメリカのオレゴン州にポートランドという町がありますが、そこは公共交通が発達していて、私も何度か行ってはいますが、バスが町全体を網羅するような形で、自分の車を持たなくてもシェアカーもあるしという形で、今治市にもやはりそういった公共交通の充実が必要になってくるのかと

	<p>思います。</p> <p>公共交通がどれだけ充実しているのかについては、住みやすさにも関わってくると思います。自治体の皆さんが苦勞しながら、どういう風に充実させられるかについて考えておられるのですが、地方部では、公共交通ではなく自家用車を使われる傾向が高い現状であるため、空気を運んでいるという言われ方をされたりします。それに税金を使いながら運営しているという状況ですから、いかに効率化していつて費用がかからないようにしながらも、市民の方や来訪者の方に利用してもらおうかというところを議論している状況かと思ひます。考え方としてはいつでもどこでもバスが走っていて全てが便利で満たされている状況であれば OK なのかというところではなく、使われていないバスが何本もあっても仕方がないので、例えば一部はデマンドになっていて、予約が必要で少々不便だけれども、無駄なコストをかけなくて、利用者の皆さんもデマンドすることに慣れていつて、うまくそれが持続可能になっていく、というようなことも公共交通を運営していく上では必要だと思ひます。人口が減っていくことを前提としていくという中で、例えば自動運転などの技術が現在発展し始めていて、いろんところで自動運転バスなどの実験もされています。あるいはドローン輸送などいろいろな実験がされているというところで、それらはまさに人口、担い手が減っていくことを前提として、どのように地域を持続可能に動かしていくかを考えている分野なのかなと思ひます。新しい技術の発展を踏まえながら計画づくりをしていくかが必要な視点ではないかと思ひます。</p>
<p>委員</p>	<p>皆さんのご意見を伺っていて、「賢く縮む」という言葉がとても記憶に残りました。</p> <p>会長が仰っていた富山の例も大変有名で、富山へ行った際に電車に乗ってみました。「ああ、本当にこんな便利なものが今治にあればいいのにな」ととても感じました。住みやすいし、移動がしやすい。</p> <p>考えてみれば、私は島に住んでいて、旧今治市に出てくるのに、橋の通行料が相当かかります。公共機関のバスも人口が減るにつれ、少しずつ少しずつ減便になってきていて、今治で「今日このバスあるだろう」と思ったら、「今日はバスが運休だった」なんて、やむなくタクシーで帰ったこともあります。住むにはいい場所ですけれども、旧今治市内に出て行って、何かを買い物をする、何か欲しいものを探すというには大変不便なところがあります。いま、大三島の吉海と宮窪で産まれてきている2歳児の子供は大島旧町場両方合わせて5人しかおらず、だんだん減ってきています。ちなみに、今の2歳児でいきますと、大島は5人、伯方は22人、大三島は旧上浦町とあわせて11人、特に大島の場合は「賢く縮む」ではなく、将来消滅に近い状</p>

	<p>態になってしまうのではないかと危惧しています。実際、私の住んでいる大島でも、私の家の周りは6軒も空き家の状態です。</p> <p>ただ、しまなみ海道は素晴らしく、多くの人々、外国人観光客の方が来ていただいている、今治市内に出かけると、外国の方がたくさんいて、自転車に乗っている姿、まちにでかけている姿をみると、わたしも嬉しいです。もっともっと来てほしい。もっと来て、このしまなみ海道を活性化してくれたら、仕事も増えるし、住む人も増えるしという気がしています。</p> <p>この総合計画を考える上で、しまなみ海道沿いの旧3島5町、関前も合わせて、島しょ部も今治なので、激しい少子高齢化の中で、2050年「島しょ部のいい所だってちゃんと残っているよ」というような計画になれば私はありがたいと思っています。</p>
<p>委員</p>	<p>お示し頂いた統計は人口が減っていくということで、人口が減れば税収が減り、安定した公共サービスができなくなるというのは行政側のことですが、労働生産性を向上させて高付加価値な産業を呼び込んだり、観光業にも力を入れて外貨を稼ぐとかそういった道もあるのかなと思います。</p> <p>ただ縮むだけではなく儲けることができる市になってほしいと思いますので、次回以降の情報として、労働生産性でみたときに、人は減るけれども、税収はあがるのかとか、そういった画がかけるようなプランニングのネタを頂けるといいのかなと思いました。</p>
<p>委員</p>	<p>行政の効率化、もちろん税収に応じた市民サービスとか、極論でいってしまったら、じゃあもう田舎の地区は見捨てて、ここだけで住んでくださいよということをするれば、極論でいえばコンパクトになるが、そうはいかないのは当たり前の話です。では、賢く縮むことができればとても素敵だと思いますが、そんなに簡単に縮めるのかと疑問に思います。今治市として、愛媛の補助金などもありながら、そういうもので公共投資的に何かをやっていってより良いまちづくりをするのと、例えば民間で大きな仕事をして、何かいいよねというようなことももちろんあると思うのですが、今治市が10万円12万円分になるようなプレミアム商品券のようなものを発行したとして、市外に本社のある大型施設でそれを使うと、今治市の大事なお金がどんどん市外にもっていかれてしまうというような現象が起こっていて、今治市のために市民のために買い物をさせてあげたいなと思っているにも関わらず最後の最後で実は今治市からどんどん奪われていってしまっている。そういうところで、民間の大きな施設と今治市でどういうスタンスで付き合いしていくまちづくりをするのかなと。</p> <p>もうひとつ危惧しているのが、少し前の話ですが、ある大きな施設が改装されまして、とあるチェーン店が四国初で今治市民が行ってみたいと盛り上</p>

	<p>がりました。ステーキ屋さんとか様々大手チェーンが入っているのですが、その近郊でやっている今治市在住の個人事業主や、今治市に本社がある同じような業態のところが存在しています。しかしそういったものができると、大手に勝てず消滅してしまう。それは仕方のないことだと思いますが、では、人口が減少して行って、マーケットが縮小していくときに、大手は「採算が合わないからやめてしまおう」とすぐ撤退してしまう。そうすると、今治のまちで例えばイタリアン料理屋でピザが食べられなくなってしまったり、肉屋さんがいなくなってしまったり、もっと不便な今治になってしまう。そんな今治に魅力があるのか、じゃあ松山に移住しようとなってしまうのではないかと危惧しています。そういった意味で、次々大型の新しい施設ができるとまちが活性化されるし、とても良いことだと思いますが、ああいったハコモノが立ちすぎて目新しさがどんどんなくなっているのも事実なのかなど。その中で、民間の巨大施設を誘致する、今治の今ある風土を大事にするという中で“賢く縮む”というのは、次回のビジョンのテーマにさせていただければ助かると思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>市民のリテラシーを上げるということも必要だと思います。私もフードマイレージとかいろんなもので作ってやっていますけれども、安ければいい、早ければいいというものだけで消費行動を決定していくと、今ご指摘いただいたような問題が起こると思うのですが、そうではなくて今治の農産物であったり、今治のレストランだったりそういうところが大切だねという価値観をもって、そういうところに消費を落としていくということをしていかないと、恐らく大きな資本に負けて、なくなっていくというのはそうなるんだろうと思います。それが今の今治の商店街の形になっているのかもしれませんが。そうではないような未来を創っていく必要がありますので、ハード・ソフト・こころの話をいかにつくっていくのか、教育の面でも非常に重要なと思いますので、各部署のところでも検討いただいている内容をうまく横ぐしをさせるような形で、総合計画で連携をとってというようなところを各部局のところにも載せることも総合計画の大きな役割だと思います。</p>
<p>会 長</p>	<p>様々ご意見を頂きましたので、たくさんの宿題が出てきたと思いますが、ぜひアンケートや様々なデータ分析など、このあたりを提供いただきまして、次回様々なストーリーを議論できればと思います。</p> <p>それでは、今後の議事3「今後の開催予定について」お願い致します。</p>
<p>事 務 局</p>	<p>(資料4について説明)</p>
<p>会 長</p>	<p>本日は長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。こ</p>

れをもちまして、第1回「今治市総合計画審議会」を閉会といたします。
皆様、本日はどうもありがとうございました。